

第2回関東ローバーの集い

実施報告書

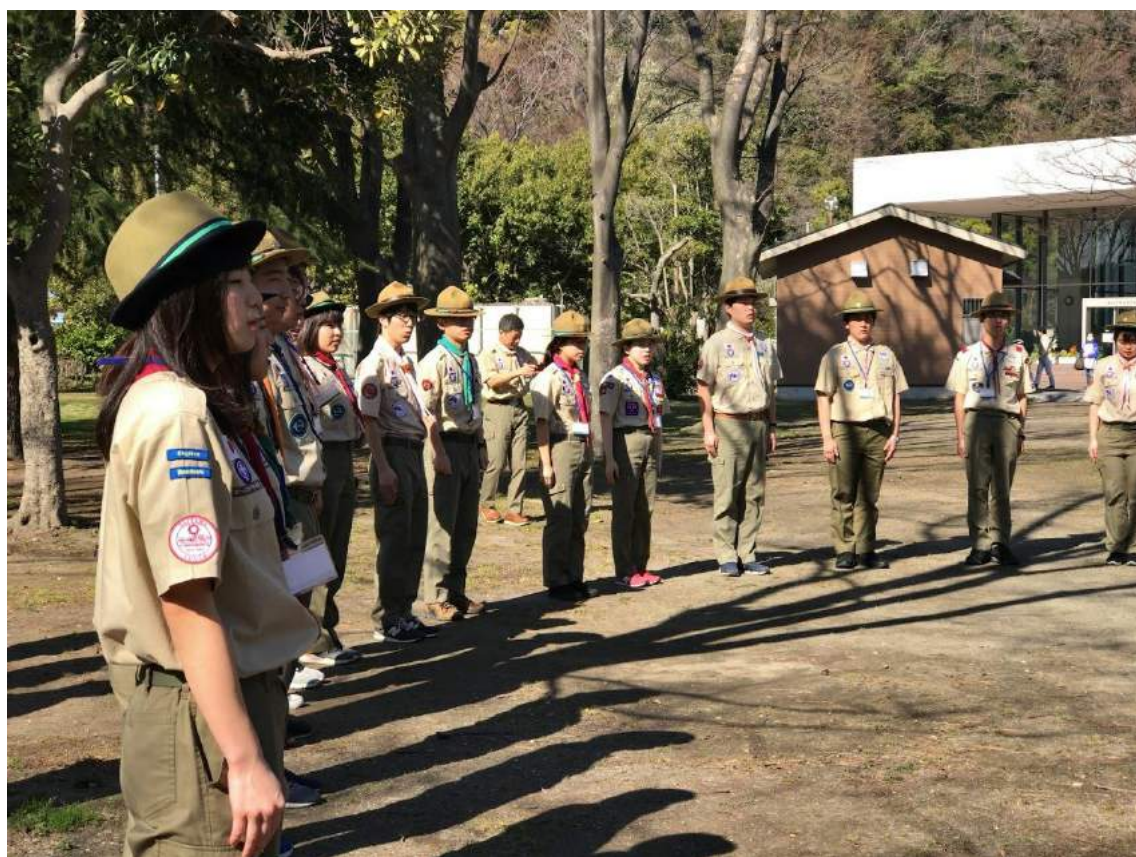


作成：第2回関東ローバーの集い実行委員

第2回関東ローバーの集い報告書目次

| | |
|--------------------------|----|
| 1 概要..... | 3 |
| 1-1 主催..... | 3 |
| 1-2 テーマ..... | 3 |
| 1-3 イベントの目的..... | 3 |
| 1-4 会場..... | 3 |
| 1-5 イベント期間..... | 3 |
| 1-6 参加費..... | 3 |
| 1-7 参加者..... | 3 |
| 1-7-1 実行委員..... | 4 |
| 1-7-2 参加者..... | 5 |
| 1-8 タイムスケジュール..... | 7 |
| 1-9 献立..... | 10 |
| 1-10 プログラム..... | 11 |
| 1-11 使用備品..... | 18 |
| 2 開催までの事務手続き..... | 20 |
| 2-1 関東ブロック会議まで..... | 20 |
| 2-2 開催案内配布まで..... | 20 |
| 2-3 実施まで..... | 21 |
| 2-4 参加者対応・備品について..... | 21 |
| 3 収支決算..... | 22 |
| 4 評価反省..... | 24 |
| 4-1 テーマについて..... | 24 |
| 4-1-1 テーマ設定時..... | 24 |
| 4-1-2 プログラムとの関連..... | 24 |
| 4-2 参加申込み・参加者対応について..... | 24 |
| 4-3 参加章について..... | 25 |
| 4-4 イベント開催時期について..... | 25 |
| 4-5 タイムテーブルについて..... | 25 |
| 4-6 食事について..... | 26 |
| 4-7 参加費について..... | 26 |
| 4-8 各プログラムの振り返り..... | 27 |
| 4-8-1 チームビルディング..... | 27 |
| 4-8-2 ローバーカフェ..... | 27 |
| 4-8-3 活動報告..... | 28 |

| | |
|--|----|
| 4-8-4 奉仕活動..... | 28 |
| 4-8-5 ローバーナイト..... | 30 |
| 4-8-6 プチフォーラム..... | 30 |
| 4-9 その他振り返りと反省..... | 30 |
| 4-9-1 備品..... | 30 |
| 4-9-2 安全..... | 31 |
| 4-9-3 利用場所について..... | 31 |
| 4-9-4 移動手段について..... | 31 |
| 4-9-5 配車関係について..... | 31 |
| 4-9-6 実行委員の動きについて..... | 32 |
| 5 所感..... | 35 |
| 6 謝辞..... | 41 |
| 【参考資料①】アンケート..... | 42 |
| 【参考資料②】プチフォーラム振り返り..... | 50 |
| 【参考資料③】17th APR SCOUT PHOTO CONTEST 2019 実施要綱..... | 61 |



1 概要

1-1 主催

第2回関東ローバーの集い実行委員

実行委員長 RCJ 神奈川連盟代表 みなと地区横浜第87団 渡邊亮太

1-2 テーマ

「友情にアツい関東ローバー ～友と話し、遊び、食べる 激アツな春～」

テーマの「アツ」には、普段活動人数が少ない県連盟からも「集」まって一緒に活動すること、奉仕活動や交流を通して個人の情や気持ちの「篤」さを考えること、ローバーならではの活動や一体感から「熱」になること、3日間を通して「厚」い関係をつくり今後の活動へ生かすこと、というような意味を込めています。

1-3 イベントの目的

- 関東ブロックのローバースカウト・青年指導者同士が交流することで、団、地区、県の枠を超え仲間を作り、それぞれの場所で今後活動するためのネットワーク構築への一助とする。
- 様々なプログラムを通して関東ブロック内のローバースカウト・青年指導者が協力し切磋琢磨し情報交換することにより、個々人のローバーリングの発展により一層寄与すると同時に、自身の団、地区、県連盟へ寄与するための一助となる。

1-4 会場

横浜市野島青少年研修センター

住所:神奈川県横浜市金沢区野島町 24-2 野島公園内

1-5 イベント期間

2019(平成31)年3月9日(土)～11日(月)2泊3日(舎営)

1-6 参加費

6000円

1-7 参加者

45名(うち実行委員9名)

1-7-1 実行委員

| 担当 | 氏名 | 所属等 | 備考 |
|--------------|--------|---|------|
| 実行委員長 | 渡邊 亮太 | 神奈川県連盟横浜第87団……………○ | |
| 副実行委員長 | 山岸 野明 | 神奈川県連盟横須賀第4団 2016年度 RCJ 関東ブロック代表……………□ | |
| 総務長 プログラム | 平子 巧 | 神奈川県連盟藤沢第21団……………◇ | |
| プログラム長 | 木伏 悠斗 | 東京連盟江戸川第1団 | |
| 参加者対応 | 中山 堯登 | 千葉県連盟印西白井第1団……………○ | |
| 会計 献立 | 七里 祐輔 | 神奈川県連盟横浜第83団 | |
| 備品 プログラム | 四至本 鈴香 | 埼玉県連盟川口第1団……………○ | |
| 安全 食 | 佐々木 真帆 | 群馬県連盟前橋第3団……………○ | |
| 安全 プログラム | 飯塚 正樹 | 東京連盟葛飾第9団 | |
| 献立 | 原田 杜 | 群馬県連盟前橋第5団 | 当日欠席 |
| プログラム | 白井 栄全 | 茨城県連盟水戸第8団……………○ | 当日欠席 |
| プログラム | 峯岸 志向 | 山梨連盟甲府第4団……………○ | 当日欠席 |
| プログラム | 齋藤 希弥 | 栃木県連盟宇都宮第15団……………○ | 当日欠席 |

○2018年度 RCJ 県代表

◇2017年度 RCJ 県代表

□2016年度 RCJ 県代表



1-7-2 参加者

| 県連盟 | 所属団 | 氏名 | 備考 |
|--------|---------|--------|---------------------------|
| 群馬県連盟 | 群馬町第1団 | 有澤 祐香 | |
| | 前橋第1団 | 高柳 凜太郎 | |
| 埼玉県連盟 | 熊谷第2団 | 泉田 駿 | 9日21時～最終日 |
| | 東松山第1団 | 加島 潤 | |
| | 東松山第1団 | 金子 祐真 | |
| | 東松山第1団 | 高橋 栞 | |
| | 東松山第1団 | 戸田 直宏 | |
| | 草加第3団 | 草間 明浩 | |
| | 上尾第4団 | 須賀 啓太 | 10日8時～最終日 |
| | 上尾第4団 | 田中 琉生 | 10日8時～最終日 |
| | 上尾第9団 | 金田 遼 | |
| | 春日部第7団 | 山崎 夏実 | |
| 千葉県連盟 | 柏第1団 | 青木 美德 | |
| | 野田第5団 | 鈴木 麻夕 | |
| | 佐倉第3団 | 関元 紅音 | |
| | 印西白井第1団 | 藤山 遼太 | |
| 神奈川県連盟 | 川崎第56団 | 仲尾次 隆史 | |
| | 横浜第11団 | 上本 菜摘 | 9日16時～10日15時 11日8時～最終日 |
| | 横浜第58団 | 狩野 紀香 | |
| | 横浜第61団 | 三橋 明莉 | 初日～10日21:30 |
| | 横浜第68団 | 広川 誠 | |
| | 藤沢第6団 | 宮本 寛生 | |
| | 藤沢第12団 | 新発田 遼 | |
| | 藤沢第18団 | 佐藤 巴南 | |
| | 藤沢第19団 | 山野井 心 | 初日～10日21:30 |
| | 藤沢第21団 | 平子 侑果 | 9日18時～最終日 |
| | 相模原第7団 | 上田 和奏 | |
| | 平塚第3団 | 青木 優太 | |
| | 伊勢原第1団 | 池田 ひかり | |
| | 伊勢原第2団 | 新井 結喜 | 9日15時～最終日 |
| 東京連盟 | 江戸川第2団 | 鳥海 航輝 | |
| | 千代田第11団 | 西 秋乃 | |

| | | | |
|------|-------|--------|----------------|
| | 杉並第3団 | 内田 椋太 | |
| | 昭島第1団 | 木村 直登 | 11日 8:30～最終日 |
| | 多摩第3団 | 長谷川 明里 | |
| 大阪連盟 | 茨木第3団 | 佐坂 美月 | 10日 18時～11日 8時 |

6 県連 36 名



1-8 タイムスケジュール

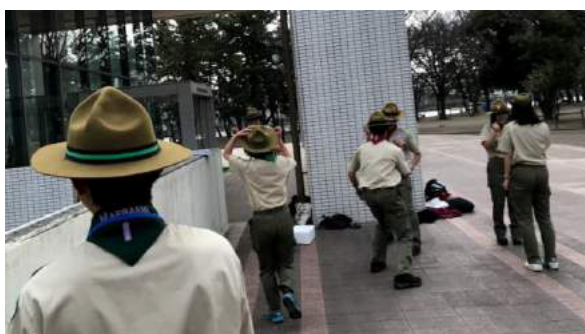
3月9日(土)

| 時間 | 内容 | 場所 |
|-------|---------------------|--------------|
| 13:00 | 参加者集合 | ビジターホール |
| 14:00 | 入所式・開会式 | ビジターホール・野島公園 |
| 14:30 | 全体写真 | 海岸沿い |
| 14:40 | オリエンテーション | 第2研修室 |
| 15:10 | プログラム① チームビルディング | 第2研修室 |
| 17:20 | プログラム① 夕食づくり | 食堂・厨房 |
| 19:20 | 夕食 | 食堂 |
| 20:20 | プログラム② ローバーカフェ | 食堂 |
| 21:30 | 班長会議 | 第2研修室 |
| 23:00 | 就寝 | 宿泊室 |



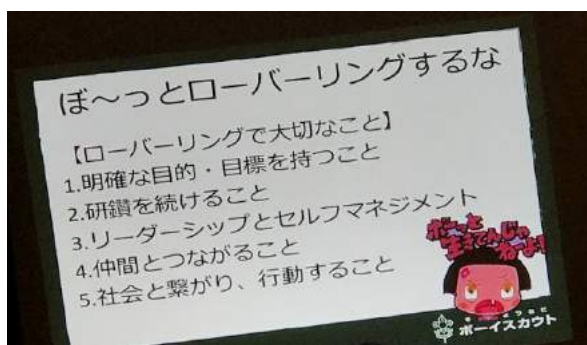
3月10日(日)

| 時間 | 内容 | 場所 |
|-------|-------------------|------------|
| 7:00 | 起床・朝食 | 食堂 |
| 8:30 | 朝礼 | 研修センター前 |
| | 記念撮影 | 研修センター前 |
| 9:00 | 朝のゲーム | 野島公園 |
| 9:30 | プログラム③ 活動報告 | 食堂・第2研修室 |
| 12:30 | 昼食 | 食堂 |
| 14:00 | プログラム④ 奉仕活動 | 第2研修室・野島公園 |
| 18:00 | 夕食 | 食堂 |
| 19:30 | プログラム⑤ ローバーナイト | ビジターホール |
| 21:30 | 班長会議 | 第2研修室 |
| 23:00 | 就寝 | 宿泊室 |



3月11日(月)

| 時間 | 内容 | 場所 |
|-------|-------------------|---------------------------|
| 7:00 | 起床・朝食 | 食堂 |
| 8:30 | 朝礼 | ビジターホール |
| 8:45 | 朝のゲーム | ビジターホール |
| 9:00 | 掃除 | 地下1階廊下・トイレ・食堂 厨房・1階トイレ |
| 9:30 | プログラム⑥ プチフォーラム | 第2研修室 |
| 12:15 | 昼食 | 食堂 |
| 13:30 | 退所式・閉会式 | ビジターホール |
| 14:00 | 解散 | |



1-9 献立

| | 朝 | 昼 | 夜 |
|--------------|------------------|----------|------------------------------|
| 3月9日 (土) | | | リレー形式料理 (食材獲得ゲーム) |
| 3月10日 (日) | サンドイッチ 肉団子スープ | シーフードカレー | 中華料理(チャーハン・チン ジャオロース・スープ) |
| 3月11日 (月) | サンドイッチ カップスープ | お弁当(崎陽軒) | |

| | | |
|----------|----------|----------|
| | 1日 目夜 | 1日 目夜 |
| 2日 目朝 | 2日 目昼 | 2日 目夜 |
| 3日 目朝 | 3日 目昼 | |



1-10 プログラム

プログラム①チームビルディング

同じ班の人や他の班の参加者と交流し、仲を深めることを目的として行った。そのために、自己紹介・他己紹介、人間知恵の輪、夕食の食材をかけた班対抗ゲームを行い、班の中での親睦を深めた。獲得した食材は、夕食の材料となり、班員全員が決められた時間内で調理しあう夕食づくりへと連動して行った。



プログラム②ローバーカフェ

年齢差があるローバー年代の中で、同年代同士で話し合う時間と異学年で話し合う時間を設けた。お菓子や飲み物を用意し終始リラックスした雰囲気の中で、ホワイトボードを使って各自が考えたことを共有する様子が見られた。



プログラム③活動報告

参加者から世界・全国・各県・各地区・スカウトに及ぶプロジェクトや経験、活動について報告し合う場をブース出展という形で設けた。また、報告者自身が他の報告者の報告内容を知るため、また集いだけで留まらない活動に繋げるべく、紙媒体の活動報告誌「KANTO TIMES(関東タイムズ)」を発行した。本誌は、活動報告を A4 一枚にまとめたものを参加者全員分印刷し、ファイリングし、その後の資料整理のためのファイルとしても提供した。発表団体は「全国ローバースカウト会議」「神奈川連盟湘南地区」「神奈川連盟カラーチーム」「第 52 回ローバースカウト 100Km ハイイク」「日韓スカウト交歓計画運営」「香港ムート」「International Peace Camp」「Youth Scouting of Kanagawa」の 8 団体であった。



関東 TIMES 発行記事一例

RCJ運営委員会

RCJとは
RCJとは、World Scout Conference(世界会議)から4年ごとに開催される世界大会の準備委員会です。本大会は毎年10月に日本国東京都で開催されます。本大会の準備委員会として活動し、大会の準備を進めます。本大会の準備委員会として活動し、大会の準備を進めます。

RCJの活動内容
RCJの活動内容は、大会の準備を進めることです。具体的には、大会の会場を確保し、大会のプログラムを決定し、大会の運営を担います。

RCJのメンバー
RCJのメンバーは、世界中のスカウトリーダーとボランティアです。彼らは、大会の準備を進めるために活動しています。

RCJの活動場所
RCJの活動場所は、世界中のスカウトリーダーとボランティアです。彼らは、大会の準備を進めるために活動しています。

報告者：埼玉県蓮沼川口第1団3団長 西谷本音

アイスランドに五千人！

国際野営大会

世界スカウトムートが今年の夏に開催

15th World Scout Jamboree

第16回世界スカウトムート 2021年アイスランドで開催決定！

第2回関東ローバーの美しい活動報告会「KANTO TIMES」掲載

報告者：神奈川県横浜地区協議会 第3団 団長 VS 副団長 朝比奈雄志

#YSK

平成30年度の活動報告

2019年度活動報告

今年度活動報告以上の活動報告を掲載

活動報告の掲載方法

活動報告の掲載方法

活動報告の掲載方法

プログラム④奉仕活動

世界スカウト機構 (WOSM) や国連日本広報局作成の資料から Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標, SDGs) を学び、そこから自分でできる活動を考える「SDGsワークショップ」、野島海岸で多数漂着するマイクロプラスチックの説明を野島青少年センター職員の方から説明いただき、その収集と海岸清掃を行う「野島海岸清掃奉仕」を行った。またその活動写真を撮影し 17th APR SCOUT PHOTO CONTEST 2019 に出展した。

<SDGs ワークショップ>

以下の資料を用いて SDGs を紹介、今回はその中でも「14 番海の豊かさを守ろう」を深く掘り下げて紹介した。その際、神奈川連盟横浜第 68 団広川 誠 RS から海洋ゴミ問題について発表いただいた。また、県連盟ごとで班を作り自分の県での SDGs に関する活動を調べ、自分たちにどのような活動ができるか考えた。

- Scout for SDGs (WOSM) <<https://sdgs.scout.org>>
- We're Scouts for SDGs (WOSM)
<https://www.youtube.com/watch?v=IgWZkrA_c9s>
- JAPAN SDGs Action Platform (外務省)
<<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/case/index.html>>
- 国連を映像で学ぶ (日本国連広報局) より複数の動画
< https://www.unic.or.jp/texts_audiovisual/audio_visual/learn_videos/>
- One World One Ocean ～プラスチックと海の生き物たち～ (山本歩)
< <https://www.youtube.com/watch?v=hgmsmseJ2EQ>>



〈野島海岸清掃奉仕〉

野島青少年センター職員の方から、野島海岸に多数漂着するマイクロプラスチックについてその種類や危険性などを実物の展示を交えながら説明いただいた。また野島海岸へ行きマイクロプラスチックを収集した。その後清掃活動について振り返りをした。



〈17th APR SCOUT PHOTO CONTEST 2019 への出展作品〉

各班で野島海岸清掃奉仕の写真を撮影。安井 馨 神奈川連盟スカウト支援委員に協力いただき、日本連盟経由で 17th APR SCOUT PHOTO CONTEST 2019 へ出展した。

参考資料として、17th APR SCOUT PHOTO CONTEST 2019 実施要綱(報告書 61 ページ参照)を附随させておく。



SCOUTS

17th APR SCOUT PHOTO CONTEST

Submit your entries:
asia-pacific@scout.org
tere@scout.org



プログラム⑤ローバーナイト

各班や、有志などによる歌やスタンプなどで、親睦を深め、また、新たな発見などをさせる場として行った。各班、有志によるスタンプやゲームを行い、盛り上がるひと時となった。



プログラム⑥プチフォーラム

これまでのプログラムの総まとめとして設置した。「ボートとローバリングしてるんじゃないよ」という題目の基調講演をした後、今後の活動に向けてどのような活動をしていきたいか、ということについて各自で考え、各班、所属連盟で話し合った。話し合いの際には振り返りシートを利用した。



1-11 使用備品

| 番号 | 品名 | 数量 | 目的 | 借用先等 | 備考 |
|----|-----------------|--------|------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 | ファイル | 人数分 | 参加者へ配布 | 神奈川連盟 | |
| 2 | 名札用紙 | 人数分 | 参加者へ配布 | 事前作成 | |
| 3 | 名札ケース | 人数分 | 参加者へ配布 | 神奈川連盟 | 吊り下げ型。終了後回収 赤 20、青 50 |
| 4 | コピー用紙 | 1000 枚 | 本部 | 神奈川連盟 | |
| 5 | 雑巾 | 5 枚 | 本部 | 神奈川連盟 | |
| 6 | 湯沸しポット | 2 つ | 本部 | 青少年センター | |
| 7 | ごみ袋(大) | 30 枚 | 本部 | 神奈川連盟 | |
| 8 | 紙コップ | 30 個 | 本部 | 当日購入 | プログラム 2～夜懇親用 マイコップを忘れた人用 |
| 9 | 飲み物 | 適量 | 本部 | 当日購入 | プログラム 2～夜懇親用 |
| 10 | お菓子 | 適量 | 本部 | 当日購入 | プログラム 2～夜懇親用 |
| 11 | プリンター | 1 台 | 本部 | 神奈川連盟 | |
| 12 | 養生テープ | 2 巻 | 本部 | 神奈川連盟 | |
| 13 | 掲揚用国旗 | 1 枚 | 本部 | 神奈川連盟 | |
| 14 | 室内用国旗 | 1 枚 | 本部 | 神奈川連盟 | |
| 15 | プリンターの予備 インク | 適量 | 本部 | 神奈川連盟 | |
| 16 | 室内用掲揚柱 | 1 枚 | 本部 | 神奈川連盟 | |
| 17 | ホワイトボード マーカー | 3 セット | 活動報告会・奉仕活 動・プチフォーラム | 青少年センター | |
| 18 | プロジェクター | 1 つ | 活動報告会・奉仕活 動・プチフォーラム | 青少年センター | |
| 19 | 延長コード | 5 本 | 活動報告会・奉仕活 動・プチフォーラム | 青少年センター | |
| 20 | 延長コード(ドラ ム) | 2 つ | 活動報告会・奉仕活 動・プチフォーラム | 神奈川連盟 | |
| 21 | ポストイット | 7 束 | 活動報告会・奉仕活 動・プチフォーラム | 神奈川連盟 | |
| 22 | 模造紙 | 1 箱 | 活動報告会・奉仕活 動・プチフォーラム | 神奈川連盟 | |

| | | | | | |
|----|---------|-------|--------------------|-------|---------------------|
| 23 | マジックセット | 12 個 | 活動報告会・奉仕活動・プチフォーラム | 神奈川連盟 | 8 色セット 黒色セット 1 袋 |
| 24 | ハサミ | 7 つ | 活動報告会・奉仕活動・プチフォーラム | 神奈川連盟 | |
| 25 | セロハンテープ | 2 つ | 活動報告会・奉仕活動・プチフォーラム | 神奈川連盟 | |
| 26 | スズランテープ | 1 つ | 活動報告会・奉仕活動・プチフォーラム | 神奈川連盟 | |
| 27 | 磁石 | 1 セット | 活動報告会・奉仕活動・プチフォーラム | 神奈川連盟 | |

2 開催までの事務手続き

2-1 関東ブロック会議まで

関東ブロック会議は 2018 年 12 月 8 日に行われた。これは、関東ブロックに属する県連盟の理事長・コミッショナー等が集まる会議であるが、その会議にてブロックイベントの開催が決定した。会議までに行った手続きは、①実行委員を募集②企画書作成③実行委員長の属する連盟での承認(今回は神奈川連盟への承認)である。

①実行委員募集

今回は、9 月 19 日に行われた第 4 回関東ブロック会議(RCJ 県代表によるブロック内での会議)にて、実行委員長が選出され、その後、9 月 21 日には募集フォームが作成された。9 月 30 日までに、各県連盟から実行委員を 1 名以上選出する、という形で実行委員の募集が行われた。その後、10 月 21 日に行われた、第 5 回関東ブロック対面会議の後半にて、実行委員が顔合わせし、始動した。

②企画書作成

イベント名・募集人数の選定・場所の選定・プログラム・参加費決定などのために、複数回会議を行った。実行委員が遠距離に住んでいるため、会議は LINE 電話にて行われた。また、場所の選定については関東ブロックの中にある野営場・舎営場を各県代表や実行委員から集め共有を行い、実行委員内で決定した。企画書は、実行委員長の属する神奈川連盟のコミッショナーにも相談し、関東ブロック会議にて承認を得た。

③実行委員長の属する連盟での承認(今回は神奈川連盟への承認)

11 月 14 日の神奈川連盟理事会にて、事務手続きは以下のように示された。

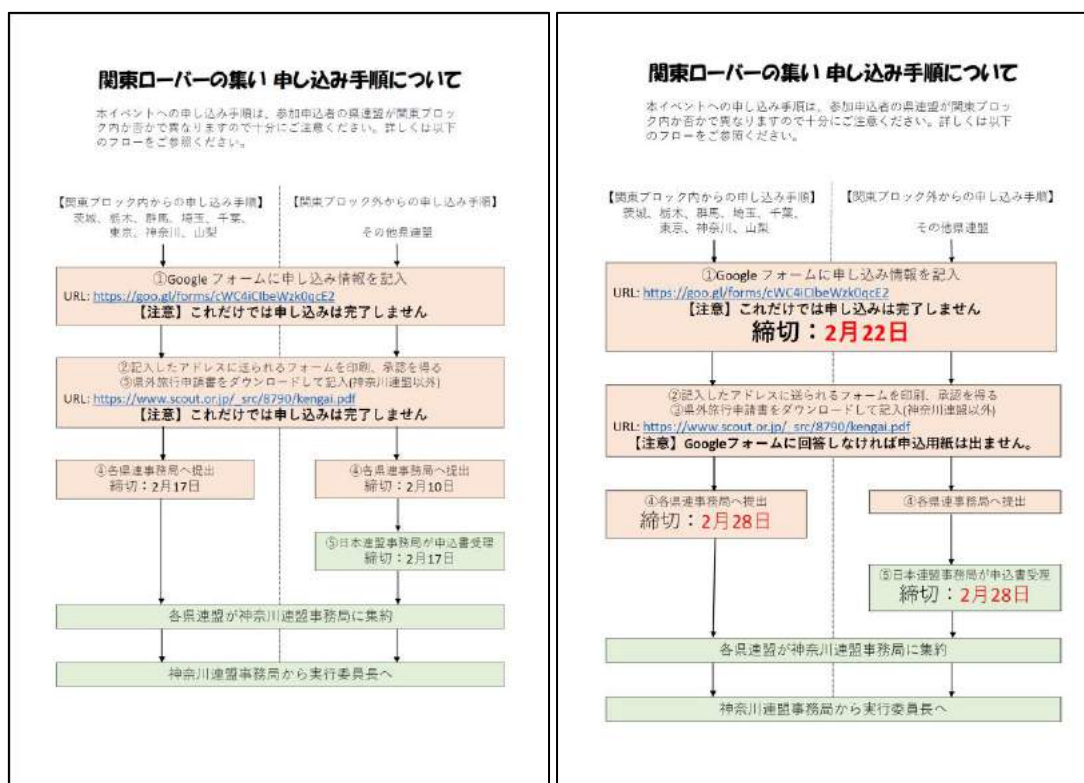
- 1) 申込み提出先は、各県連盟 RCJ 代表者宛(各県連盟事務局経由)
- 2) 申込書を添付し、団委員長、地区(委員長)、県連盟(理事長)の押印要
- 3) 各県連盟 RCJ 代表者が申込書の取りまとめを行い、→神奈川連盟事務局→渡邊実行委員長が責任を持って預かる
- 4) 事後報告は各県連盟盟・日本連盟宛(出欠者、会計含む)行う旨記載
- 5) 県外旅行申請の提出方法は、県連盟ごとに個別に行って欲しい旨を記載

2-2 開催案内配布まで

関東ブロック内の県連盟に支援金を出していただくために、開催案内配布までの期間で各県連盟に承認を得た。神奈川連盟より支援金についてのお願いを申し出、各県連盟にて承認をもらう、という形をとった。結果として、全県連盟より支援金をいただけることとなった。

2-3 実施まで

1月22日には、実施の要項の連絡が神奈川連盟コミッショナーから各県連盟のコミッショナーへ発信された。募集の締め切りは2月17日を予定していた。しかし、県連盟によって配信される時期が異なり、締め切りの1週間前に県下へ情報が配信される県連盟もあった。そのため、参加者の平等性を担保するために締め切りを2月末までに延ばした。



2-4 参加者対応・備品について

今回の申込みは Google フォームで回答することで所定の申込書を発行し、団・地区・県連盟での承認を得たうえで、各県連盟より神奈川連盟へ送付するという形を取った。神奈川連盟より、実行委員長へ参加者申込書を送付していただき、実行委員長が管理するという形をとった。しかし、当日までに神奈川連盟へ申込書が届いていない参加者もいたため、事務局との連絡が頻繁に行われた。

また、神奈川連盟事務局より、物品を借用させていただいた。事務局長と連絡を取り、前日に県連盟事務局で受取り、実施最終日の3月11日に事務局長宅へ返却した。

3 収支決算

3-1 収支決算表

| | 項目 | 詳細 | 単価 | 数量 | 小計 |
|------|------------------|---|----------|----------|----------|
| 収入 | 参加費 ¹ | | ¥213,000 | | ¥213,000 |
| | 支援金 | 各県連盟から2万円支援依頼 | ¥20,000 | 8 連盟 | ¥160,000 |
| | 収入合計 | | | | ¥373,000 |
| 支出 | 交通費 | 研修センターの抽選・調整の際にかかった交通費 | ¥3,768 | | ¥3,768 |
| | 事前準備前泊宿泊費 | 実行委員の前泊分の宿泊費 | ¥9,600 | | ¥9,600 |
| | 事前準備前泊食費 | 実行委員の前泊の食費 2 食分 実施期間の調味料代 | ¥9,080 | | ¥9,080 |
| | 実施期間宿泊費 | | ¥70,800 | | ¥70,800 |
| | 施設利用費 | 11 日の研修センター 第 2 研修室の利用料 | ¥3,400 | | ¥3,400 |
| | 実施期間食費 | 実施期間の 6 食分の食費等 | ¥95,294 | | ¥95,294 |
| | レンタカー代 | 運営用ミニバンを前泊から 3 泊 4 日で レンタル 43040 円 ガソリン代 4015 円 | ¥47,055 | | ¥47,055 |
| | プログラム① | 印刷代 | ¥1,120 | | ¥1,120 |
| | プログラム② | 備品代(ホワイトボード・マーカー等) | ¥2,592 | | ¥2,592 |
| | | お菓子・飲料代等 ² | ¥9,415 | | ¥9,415 |
| | プログラム③ | ファイル代 | ¥108 | 65 個 | ¥7,020 |
| | | 印刷代 | ¥10,542 | | ¥10,542 |
| | プログラム④ | 印刷代 | ¥3,450 | | ¥3,450 |
| | プログラム⑤ | 備品代(スピーカー) | ¥1,382 | | ¥1,382 |
| | プログラム⑥ | 印刷代 | ¥1,218 | | ¥1,218 |
| | 消耗品費 | 布巾や紙コップ等の消耗品費 | ¥4,090 | | ¥4,090 |
| 印刷費 | プログラム以外に必要な印刷代 | ¥6,400 | | ¥6,400 | |
| 支出合計 | | | | ¥286,226 | |

¹ 当日キャンセルは請求しないこととした。

² お菓子・飲料はプログラム 2 以降の夜、懇親のためにも使用した。

3-2 返金

収入 ¥373,000

支出 ¥286,226

差額 ¥86,774

当初の通り、差額の ¥86,774 については支援金をいただいた 8 県連盟に等分し返金する。

1 県連盟あたり ¥10,846、端数の ¥6 は神奈川連盟へ返金する。

7 県連盟： ¥10,846

神奈川連盟： ¥10,852

4 評価反省

4-1 テーマについて

4-1-1 テーマ設定時

テーマについては、10月21日に行われた対面会議時に、「ブロックイベント」から連想される単語を並べていきやり方からアイデアを出し合い、そこから話し合い「友情にアツい関東ローバー～友と話し、遊び、食べる 激アツな春～」に決定した。説明する際には、「アツい」に込められた意味を付け加え、「おきて」の一文を持ってきたというわけではないことを強調することができた。ほぼ全員の実行委員が集まり決定することができたため、その後のプログラム構想への着眼に大きなブレがでないことはよかったと感じている。



4-1-2 プログラムとの関連

それぞれのプログラムが持つ特性を生かしながら、テーマとの関連性を持たせることができたと感じている。第一に、過去の関東ブロックイベントの中では最大人数が「集」まった企画となった。第二に、それぞれの班のなかでメンバー同士が「厚」い信頼関係を構築できた様子が見受けられた。第三に、人と関わり今後の活動を考え、自分たちが「熱」くなれているということが見られた。

4-2 参加申込み・参加者対応について

参加申込みについては、一度申込期限を延長するという手続きを取った。これは、各県連盟での申込み期間の平等を担保するためであったが、適切な対応であったと認識している。また、この期間での参加申込み者が12名おり(内実行委員含む)、過去の関東ブロックイベントの中での最高人数での実施へとつながった。また、この手続きに関して、神奈川連盟コミッショナーから各県連盟への連絡がスムーズに行ったことも、要因であると考えている。

参加者への対応は、これまでの手続きの方法を踏襲しつつも、新たな試みを行った。しかし、県連盟ごとに情報の流通するスピードが異なるという事態が見られたこと、参加者から対応する神奈川連盟への連絡が守られないこと、参加側の判断により運営側が困惑したことが挙げられる。手続き自体は大部分において問題が無いように見られたが、浸透していくにはもう少しばかり時間がかかり

そうだと感じた。また、所定の申込書ではなく県連盟独自の申込み書にて参加を届け出るというケースや、参加申込書が神奈川連盟へ届いていないというケースもあった。今回はそのような参加者の受け入れは行ったが、今後の対応を考えたい。

更に、「遅参可」ということで運営側に連絡なく遅れてくるスカウトが何名かいたこと、当日キャンセルがいたこと、「入りと出」が頻繁にあったことは、参加者対応が忙しくなった要因である。

4-3 参加章について

今回はワッペンや小物などではなく、プログラム中に配布した「関東 TIMES」を参加章とした。これは、プログラムを経ていくことでファイリングできるものが増え、また今回の活動を振り返り今後の活動をしていくためにも使うことができる。今回の目的の中にある、「自身の団、地区、県連盟へ寄与するための一助となる」という部分にも合致するようなものとなったと自負している。また、各県連盟事務局へ 2 冊程度寄贈させていただいた。ローバーやユース年代がどのような活動をしているかが分かる資料ともなっている点は、評価できるものと考えている。ただ、イベントを知らない人への流布させるような媒体とはなりにくいため、その点ではイベントの発展性は一部に限定されてしまうことは懸念される。

4-4 イベント開催時期について

開催時期は例年と同じく、3 月の第 2 週とした。これは、参加者の多くが大学生年代であることを考慮してのことである。また、社会人の参加・学生でも授業がある参加者を考慮し、土日にメインのプログラムが実施できるような構成とした。

今回は初めて高校 3 年生の年代が参加することのできたイベントであった。同年代のスカウトは大学受験をするものが多い。彼らが参加することをもう少し考慮するなら、国公立の可否がわかり落ち着いた第 3 週にすることも考えられる。

4-5 タイムテーブルについて

全体を通して余裕を持った時間配分を目指したが、結果として時間が押した傾向にあったと感じている。プログラム計画の中で予定していた通りに進んで行くことは少なく、かなりのプログラム内で時間調整や配分を再考することが見られた。また、他団体の利用がある時間もあり、調整が多くなってしまったことは反省点である。同時に、参加者への頻繁な変更があったことも反省としてあげたい。

実施する中で、タイムテーブルを詳細に説明する機会はあるが、参加者の多くが次に行う活動の見通しをもつことができているものと考えている。しかし、しおりの配布が遅かった事、当日の変更などもあり掲示板の活用度合いが低かったために、少なからぬ混乱が見られたように思う。掲示板での

開始時刻・実施場所等の告示とともに、グループ LINE の活用がされたことは活動の運営をスムーズにしたと考えている。

4-6 食事について

食事は、1 日目の夕食以外は実行委員による調理を行い提供した。40 名弱の食事となったが、アンケートの結果を見ると好評だったことがうかがえる。1 日目の夕食では、地元神奈川県の名産品を使い、三浦のマグロやシラス、野菜を使えるように準備を行い、調理してもらった。過去 2 回の関東ブロックイベントと比しても、提供する食事のクオリティは格段にあがったものと考えている。参加者が作る食事と実行委員が作る食事というこれまでの食事の提供の仕方は変更しなかったものの、実行委員が提供する食事が多かった。参加者からの意見に、「実行委員ばかりに作らせてしまい悪い」という趣旨の内容があったが、プログラムの構成上しかたがないものとする。

ただ、提供する食材(特に朝食)が偏ったこと、参加者に食材を出す時間などが遅れてしまうところがあった。また、大人数での提供により味の偏りや量が不十分である、などの声が見られた。舌の肥えた参加者をうならせるためにも、食事の内容を上げていくことが今後の改善点である。

4-7 参加費について

今回の参加費は、これまでのブロックイベントよりも 1000 円高い 6000 円であった。しかし、感触としては参加費以上の内実であったと自負している。同時に、関東ブロック 8 県連盟からも 20000 円の支援金を賜り、充実したプログラム・食事を提供することができた。今後のブロックイベントにおいても、同額前後の参加費で実施できるように企画することで、参加する側へも支援する側へも見通しが持てるものと考えている。



4-8 各プログラムの振り返り

4-8-1 チームビルディング

最初のプログラムということで、参加者が互いのことを知り、コミュニケーションが取れるようなプログラムを目指して計画した。

自己紹介・他己紹介ではローバーらしく積極的にコミュニケーションを取り、話に花を咲かせている様子が見られた。しかし、遅刻の参加者を待っていたことで少しダレてしまった部分があったので、全体の進行を優先すべきだったと反省している。

班対抗ゲームの人間知恵の輪では、戦略を班で話し合えるように、一般的なルールとは異なり班でどれだけ複雑に絡まれるかを競うようにしたが、審判の運営間でその共有ができておらず、判定に手間取ってしまった。

食材獲得ゲームは、3つのブースでそれぞれ課題を提示し早くクリアした班から食材を選べるというもので、戦略性とスカウトスキルと運要素を兼ね備えた内容にした。班全員で1つずつ課題をクリアしていく班もあれば、2、3人に分かれて同時に課題に取り組む班、まず全ての課題を確認しLINEで共有して相談する班、中には技能に長けた参加者が手旗ブースを1人で速攻で終わらせる班もあり、様々な戦略が見られそれが夕飯の食材という結果にも繋がっていて、非常に面白いプログラムになったと感じている。特にブースの1つの自作のボーイスカウトパズルは自分自身も初めての試みだったが、参加者もこのような形でスキルを競うことに新鮮さを感じていたようで、原隊での活動の参考にしたいという声も挙がった。

班ごとに1人ずつのリレー形式とした夕飯作りは、そもそも自分が夕食作りの部分まで計画することになったのが直前だったこともあり、計画不足は分かりきっていた。そのため細かなルールや参加者への説明の仕方についても頭の中でしかまとめられておらず、特に説明の段取りはかなり悪くなってしまった。チームビルディングの計画がもっと早くできていれば夕飯作りについても余裕をもって計画できたので、今回のことに限らずプログラムの計画は早めに行うようにしたい。

夕食作りの不手際に関してはアンケートや班長会議でも指摘されていたものの、アンケートの結果を見ると全体としては満足度が高く、運営の目から見てもこのプログラムの前後で班内の雰囲気の良い意味でガラッと変わっていた。反省点は多々あったが、プログラム自体は成功したと言えるのではないかなと思う。

4-8-2 ローバーカフェ

今回のローバーカフェは、前半部分は年齢ごとに3グループに分かれてもらいローバー活動について語り合ってもらい、そのあとにグループをシャッフルし前半のフィードバックをそれぞれ行うという形をとった。実施直後において行われた班長会議において出た意見では、同年代という括りで集まり話す機会が提供されたという点に関しては一定の評価が頂けたが、テーマ設定がありきたりなものであったため、ローバーとしての経験が豊富な方にとっては既視感を感じられて

しまっていた。その失敗がアンケートにもしっかりと反映されており約二割の参加者が「やや不満が残る」と回答をされている。

このような結果になってしまった原因は自分自身の経験不足という点が一番大きい。こういったイベントの経験が浅かったので、ローバーカフェが何を求められているプログラムであるのか、今までのローバーイベントでのローバーカフェはどういった形で行われていたのか、といったことがわからないまま進んでいってしまった点は大いに反省したい。

4-8-3 活動報告

活動報告プログラムは、ブース出展と『KANTOTIMES』発行による報告の二つに分けられる。

ブース出展も『KANTOTIMES』も事前に参加者に報告依頼をした。報告依頼に関しては、使用した書類等をご参照いただきたい。

『KANTO TIMES』は活動報告プログラム開始時に発行し、その後全体に向けて RCJ 報告を 10 分ほど食堂で行った。報告者の紹介をし、『KANTO TIMES』に掲載したブース出展による報告を聞く際のメモや、サインをする用紙、活動報告をもとに各自ブース出展に参加した。ブース出展は報告 15 分、質疑応答 5 分、休憩 10 分の計 30 分の流れを 4 回行った。一部屋をパーテーションで区切り、3~4 ブースを展開していたため、タイムキーパーとして中山実行委員と四至本が区切られた部屋に待機していた。休憩中は報告者と談笑している参加者が多く、厳しく時間制限をしたものの、休憩を 4 回設けていたということも、各々がコントロールしていた。参加者に配った以外の『KANTO TIMES』は関東ブロック全ての県連盟と大阪連盟の事務局宛に発送した。

反省は多くある。まず第一にプログラム準備にとりかかる時期が遅かったことである。実行委員の都合上、当初予定していた担当者ではなく四至本が担当になったのが1か月前であり、報告者の募集を募ったのは2週間前とタイトスケジュールとなった。これにより最終的には当日準備に頼ることが多く、特に実行委員とブース出展の報告者への負担がかなり肥大化してしまったこともあげられる。また、報告締め切りを参加受付時としたが、当日報告したいという者が多かったために、締め切りを深夜0時まで延長したことが負担になった。更に、ブース出展の発表場所については報告者を当日まで募集していたために、ぎりぎりの設置となり、プロジェクター使用者が広いブースになると、報告者に対して不公平といえる部分が多々みられた。『KANTO TIMES』はカラー印刷を予定していたが、施設には事前にカラー印刷の旨は伝えていたものの、想定以上の大量印刷であったため白黒印刷となった。

本プログラムへのアンケート評価は好印象のものが多いが、このようにまだまだ反省の余地があるので、注意してほしい。

4-8-4 奉仕活動

先日、International Peace Camp 派遣(2019年2月,サウジアラビア・リヤド)参加にし、世界中の

スカウトが各地域のニーズに応じた幅広い奉仕活動を実施していることを痛感した。一方で、日本で奉仕活動と言えば募金活動、という限られた範囲での活動認識を持つ人も少なくない。

今回、その活動認識を RS から広げていくことを目的に奉仕活動プログラム内で 2 つの活動を実施した。SDGs を通じて世界中と自県の奉仕活動を俯瞰的に知る「SDGs ワークショップ」と、宿泊している野島地域で発生している海洋ゴミ問題・マイクロプラスチック問題が世界の環境問題に直結していることを学び、奉仕活動を仰望着に知る「野島海岸清掃奉仕」だ。

これに加え、アジア太平洋地域(APR)で実施されている 17th APR SCOUT PHOTO CONTEST 2019 のテーマが”SCOUT FOR SDGS”であったため各班で野島海岸清掃奉仕の風景を撮影し、出展した。詳細は 1-10 プログラム(報告書 P13)の通りである。

各活動の事前準備と事後対応について記す。SDGs ワークショップは普段からお世話になっていてそれに興味のある RS・指導者のグループよりアドバイスをいただきながら計画した。SDGs 紹介に使いやすい教材については日常的に議論されていたため余裕を持って柔軟な計画が作成できた。一方、野島海岸清掃奉仕の事前準備は青少年センターの方々と相談しながら計画した。海岸清掃については 2 週間前に相談していたが、海岸ゴミやマイクロプラスチックに関する講義については実施前日に相談した際に展示用のマイクロプラスチックや教材資料が施設にあることを伺い、急遽お願いし対応いただいた。また 17th APR SCOUT PHOTO CONTEST 2019 についてはプログラム後に安井 馨 神奈川連盟スカウト支援委員に支援いただき日本連盟経由で出展した。

今回のプログラム計画・実施では実行委員の負担を考慮しながら行った。実行委員の都合上、当初予定していた担当者ではなく平子が担当になったのが 1 か月前であり準備期間がタイトであった。実施前の一ヶ月は実行委員それぞれが仕事に追われていることを鑑み、実行委員外の方々に協力をいただきながら計画した。また当日も実行委員は連日ほとんど徹夜をしながらプログラム準備をしていたため、このプログラムに関わる実行委員を最小限にし、他の実行委員にはプログラム実施時間中に仮眠をとってもらった。このように計画・実施にて実行委員の負担を抑えたことは今回評価すべきポイントである。

参加者に記入していただいたアンケートは概ね良好であり満足していただけたと考えられ、また実施後にも数名から SDGs に関するお問い合わせをいただき、本活動が参加者それぞれで実っていることも確認できた。

プログラム実施直後にはもっと改善できる点があったのではないかと疑問を持つこともあったが、各方面からのフィードバックを踏まえると実行委員・参加者に配慮した、今回の環境下でできる最善のプログラムを提供できたと考えている。今後も同様の企画を更に磨いて実施したい。

今回の経験を通じて 1 人で企画を作ることができないからこそ、普段から活動のヒントを考える RS や指導者との繋がりの大切であることを再確認致しました。協力いただきました野島青少年センター職員の方々、安井 馨 神奈川連盟スカウト支援委員、神奈川連盟横浜第 68 団広川 誠 RS と実行委員全員に改めて御礼申し上げます。

4-8-5 ローバーナイト

初めての大きな大会の実行委員として初めて計画書などを書いていったが、変更なども多々ありその度に苦労しながら書き上げて行った。わからないことなどはいろんな方に聞いたり、アドバイスをもらいながらなんとか書き上げるまでに至った。

今回のローバーナイトは直前までファイヤーの予定だったが、急遽予定が変わり、室内でのローバーナイトとなったが、結果的に見れば満足度は高いと思われる。しかし、実行委員側では実行委員内での伝達不足があり、少し慌ただしく動かしてしまう部分もあった。また、打ち合わせ通りいかないことがあり、少々実行委員側にも、無理に仕事をさせてしまう場面もあったのでそこは反省し、次に繋げていければいいと思った。

参加者側では、今回のテーマである、「友と話し遊び食べる」という中の「話し」、また「遊び」という面で大きかったと思われる。結果的に満足度も高く、色々な地域の様々なスタンプなどが盛り込まれていたため、参加者側で何か得ることができたらそれはありがたいことである。

4-8-6 プチフォーラム

プチフォーラムの目的は、今大会終了後に今大会3日間で学び、得た知識を自分の県や地区、団、隊にどのように還元し、持続可能な活動につなげることを考える場の提供であった。

基調講演には、現在(実施当時)RCJ 議長を務めている木村直登スカウト(昭島第1団・東京)を招き、「ボ～ッとローバリングしてんじゃねえよ！」を題目に木村スカウト自身のローバー活動への考え方を伺った。木村スカウトの今までの経験から、現在取り組んでいること、また今後取り組んでいきたいと考えていることについても語ってもらった。木村スカウトの参加は発表当日の朝からとなったが、1か月前には発表依頼をすることで何度か企画の方針や時間について連絡を取り、発表前夜には電話をしながら発表するパワーポイントの打ち合わせを行い、発表当日は1時間前からプロジェクターや流れの確認をすることで当日はスムーズに基調講演を行うことができたように思う。特に前日の打ち合わせでは、参加者の年齢層からだけではわからなかった、現在の参加者の雰囲気などについて伝えることができ、その場に合う講演内容になった。

その後の話し合いでは、プログラムサポートであった平子スカウトに急遽フォーラム専用のプリント用意してもらった。参加者がふりかえりシートに記入した概要は資料として添付する(報告書P.50～参照)。反省としては、やはり当日準備が多かったことで、実行委員への負担が多く見られたことである。

4-9 その他振り返りと反省

4-9-1 備品

神奈川連盟事務局の援助により、細かな文房具からプロジェクターに至るまで用意することができた。明確な備品リストが連盟にはなかったため、早めに倉庫での確認をすることは正解であった。また、余分な備品を買わなかったために経費削減となり、更には余った備品は神奈川連盟に返品・寄与することができた。しかし、返却予定日であった集い最終日は月曜日であり、倉庫がある事

事務局が休日であったことに失念しており、遠方にある事務局長のご自宅まで備品を届け、後日事務局長に返却してもらうこととなった。以後、このようなことがないようにし、神奈川連盟には感謝の意を全力で伝えたい。

4-9-2 安全

実行委員の中で安全担当者を事前に決めていたものの、当日参加しておらず、参加者説明時に各担当を話しているときに担当者を咄嗟に決めた。健康調査書は受付時に記入し、指定した時刻に回収することで書類未提出を事前に防いだ。今回はそこまで大きな怪我や病気がなく、安全に終わったと思われたものの、安全への配慮が少々足りなかったように思える。また、体調を崩し、プログラムに参加できない参加者がいたことがあった。当時の季節では滅多に出ない症状であったために、記載してもらった健康調査書には記されていないことを当人には確認したが、今後は季節に限らず心身に関わることは全て記入してもらうように注意したい。プログラムを楽しめるように無理のない範囲で活動させる、ということも必要だと感じた。また、スカウト一人一人の健康管理が重要なのだと改めて感じた。

4-9-3 利用場所について

今回の企画では関東ブロックでは初めて BS の所轄ではない施設を利用した。職員の方は、青少年団体が泊まることに慣れているためか、快くこちら側の要望に応じてくれた。また、予約の段階から多くの変更に対応して頂けた。

大人数での利用が可能な施設であるため、前日を通しての貸切での使用は出来なかったが、2日目午後から3日目にかけては他団体はおらず、準貸切状態であった。

4-9-4 移動手段について

徒歩圏内にはスーパーが存在するが、40名前後の買い出しをするにはやはり車での買い出しが便利であった。施設側にも駐車スペースが確保されており、運営側としてもちょうどよかった。

4-9-5 配車関係について

買い出しは、人数分を考えたり、参加者の遅刻、早退に対応できるように、逐一確認を取りながら買い出しを行なったため、必要に応じて車の使用を行った。また、人の送り迎えを行うことも行うことがあった。事故もなく、無事に終了することができた。

反省点としては、買い出しに行った回数は多かったものの、食材を買い忘れ、何度も配車を行う必要があったことである。結果次のプログラムにかけられる実行委員の人数が限られてしまい、実行委員全員の負担が増えてしまうことがあった。もっと綿密に計画を行い、実際に行動する際には実行委員内で連絡を取り合っていくことが大切である。次に行くならば、人の送り迎えと買い出しの時間をきっちり決め、人数の把握を行い、逐一献立等の確認をしながら行うとより良く活動できるものと考ええる。

4-9-6 実行委員の動きについて

実施に向けて実行委員は 10 月から始動した。対面で会議をすることが少なかったのは先述の通りだが、毎回の電話会議での出席率が悪かった中で、実際にプログラムを回して無事に終えることができたのは、実行委員のこれまでの経験と知識、意欲のおかげであると感じている。詳しい動きは以下の表に示す。

| 月 | 活動内容 | 備考 |
|--------------|--|--|
| 10 月 21 日 | 対面会議 テーマ決定 役割分担の大枠を決定 | 場所は候補地のみの選出となり、決定しなかった。 |
| 28 日 | LINE 電話会議 ①プログラムの大枠(1 日目、2 日目、3 日目をどういった内容で行うか。フォーラムを行うとかファイヤーやるとか)決定。 ②イベント名を決定させる。(関東ブロックイベントからの変更) ③場所の説明と筆頭候補地選定。 ④次回の会議日時決定 | ・名称に使用できる言葉に制限があるということを共有した。 ・プログラムの大枠は確定させたが、詳細な内容は未定 ・候補地は収容人数や目標人数を鑑み、予約へ移る |
| 11 月 4 日 | LINE 電話会議 ①プログラムの大枠(1 日目、2 日目、3 日目をどういった内容で行うか。フォーラムを行うとかファイヤーやるとか)決定。 ②イベント名を決定させる。(関東ブロックイベントからの変更) ③場所の説明と筆頭候補地選定。 ④次回の会議日時決定 | 10 月 28 日に行った会議で決まらなかったことを決定させた。 |
| 12 日 | 計画書テンプレート作成 | 14 日に神奈川連盟理事会があり、県コミッショナーへ伝達 →全体の責任は神奈川連盟が持つこと・県外旅行申請が必要なことが確認された。 |
| 15 日 | 専用の GoogleDrive を作成 | |

| | | |
|-----------------------------|---|---|
| 26 日 | LINE 電話会議 ①プログラム検討 ②今後の予定 | |
| 12 月 8 日～ 9 日 18 日 | 関東ブロックコミッショナー会議 第 2 回関東ローバーの集いを実施することが決まった。 LINE 電話会議 ①プログラムへの実行委員推敲 ②時間枠決定 ③今後の予定 | 12 月 9 日に宿泊の抽選があり、当初の予定とは異なるが、予約することができた。 |
| 22 日 ～ 23 日 | 宿泊場所下見 Web ページには載っていない情報や職員の方に関する話・予約についての話を詰めた。 | 「神奈川 RS の集い」と同じ場所で行った。 |
| 1 月 8 日 | 実行委員へのアンケート 当日の行程を考えるために、実行委員へのアンケートを作成した。 | これまでに各県連盟内でユース担当指導者とのコンタクトを行った。 |
| 1 月 20 日 | 神奈川連盟コミッショナーから各県連盟へ実施要項発信・神奈川連盟事務局から各県連盟へ支援金について要請 | |
| 1 月 25 日 | Facebook イベントページ作成 | |
| 1 月 30 日 | プログラム本決定期限 | |
| 2 月 2 日 | 施設打合せ@野島青少年センター | 当日使用団体との打合せ・調整。使用部屋が確定した。 |
| 2 月 11 日 | 全体共有会@LINE 電話会議 ①生活面 ②プログラム | 申込み期限の延長が決定した。 |

| | | |
|----------|--|----------------------|
| | ③情報拡散について ④今後のスケジュール | |
| 2月20日 | LINE 電話会議 | 献立が決定した |
| 2月26日 | 全体へメール連絡 | グループ LINE を作成する旨を記載。 |
| 3月7日 | 最終 LINE 電話会議 ①スタッフの動きの確認 ②確認したいことの共有 | |
| 3月8日 | 前日準備 | |
| 3月9日～11日 | 「第2回関東ローバーの集い」実施 | |

5 所感

渡邊 亮太

実行委員長としてイベントを計画し、実施するということが初めてであった今回の「第 2 回関東ローバーの集い」であったが、まず無事に終了し、報告書が執筆されていることに安堵している。この企画を実施するまでに、実行委員をはじめとするローバースカウトや青年指導者、神奈川連盟の指導者、特にユース部長である伊藤郁夫ユース部長と清水裕県コミッショナー、関東ブロック内のユース支援指導者や理事会の方々、その他関係する多くのみなさまの力をお借りし、計画・実施がされたことに持ちえる最大限の謝辞を送りたい。この企画によって、新たに関係が作られるというような体験もでき、自身の成長にもつながっていると感じている。今後のスカウティングへの活力へとなり得る企画であったといっても過言ではない。

これまで 2 回のブロックイベントに参加してきたなかで、ローバー同士の交流が活発に行われている現状を身をもって体感してきた私は、同時に、その交流した結果があまり出ていないことに少なからぬ疑問を持った。確かに、参加するときの楽しみはあれど、その場限りの楽しみになっていないだろうか、その後の活動に生かされているような内容になっているのだろうか、という疑念はぬぐいきれない。今回の目的は、そのような自身の持つ疑問の解決策の 1 つとして成り得るのだろうか。その結果は、もうしばらく待たなければわからないような気がしているが、ある程度の達成感を感じている。

実行委員長の持つ役割が、今回は①実行委員内での会議の招集・進行②関係各所への連絡③全体の統括であった。実行委員会の進め方は正解がないだろうが、実行委員長や時の実行委員によって変化していくものだ。それぞれの特性を把握し、「楽しく」活動できることが成功への道筋になると確信している。

毎回の会議時間の超過や不手際が多かったことは猛省しており、今後に生かしたい。ただ、実行委員とともに 5 ヶ月弱歩んできた道のりは険しく、様々な方面への連絡の必要性を痛感し、同時に抱えた卒業論文のための負担の配慮もあったが、周りから多大なサポートを得られたことは、自身のこれからに向けて重要な意味を持つものと思っている。

最後に、参加者・実行委員をはじめ、関東ブロック内のユース年代のスカウティングがますます活発化し、今後の関東ブロックが一層興隆することを冀求している。

山岸 野明

今回のブロックイベントでは副実行委員長という立場で参画し、事前の準備ではプログラムへのアドバイス、当日は全体を円滑に進める上でのサポートを担った。準備期間は会議への出席やプログラム案へのコメント等を行ったが、原案が優れていたのではほぼそのままの形で進んだと感じている。また、当日のイベントも調理補助やプチフォーラムのファシリテーター等に従事したが、基本的に担当者が円滑に進行していた。総じて、アドバイザー的な立ち位置の私が介在するまでもなく、スムーズに進めることができたと感じている。今回のイベントは各実行委員のポテンシャルの高さは

もちろんのこと、実行委員会のチームワークの良さ、参加者の皆様の協力的な姿勢により好評のうちに幕を閉じたと考えている。例年のブロックイベントと比較しても事前の事務手続きが円滑に進み、次につなげることができるモデルケースを築くことができたのではないだろうか。

なお、今年度は県代表とは別に実行委員会を設置するという構造を取っていたが、実行委員と各県代表が完全に分離してしまうのは、連携を密にしない限り情報共有が不十分などのリスクが生じる可能性が高い。次年度以降で、今回のような体制（県代表と実行委員会を別で設置する体制）を敷く場合は、ブロック代表をはじめ、各県代表と実行委員会が綿密に連携する構造を持つことを強く提唱したい。

私は 2019 年度でローバー年代を引退する身なので来年のブロックイベントに参加者として行くことは出来ないが、次年度以降も今回のように円滑に進めることができれば、関東ローバーの盛り上がりは更に円滑なものになると考えている。参加者の皆様、実行委員の皆様の更なるご健勝を祈念し、結びの言葉としたい。本当に、ありがとうございました。

平子 巧

私は昨年度に続き関東ローバーの集い実行委員に参画し、総務長として企画書段階でマイルストーン・予算・備品リスト・企画書の作成などを担当し、計画段階・当日は各担当に仕事を引き継いだ。またプログラム担当として奉仕活動プログラムを担当した。

振り返ると企画書はあったが詳細が記載された文書がなかった第二回関東ローバーの集い、ポテンシャルが高くそれぞれの場面で柔軟にチームワーク良く対応できる実行委員と協力的な参加者がいなければ無事に終了できなかつただろう。特に辛い時に大声で歌いモチベーションを上げてくれた四至本プログラム担当・飯塚プログラム担当には深謝したい。

一方で、事前準備の段階では作成したマイルストーンが期日通りに達成されることはできなく、非常に苦難した。今回の実行委員は関東各県から参画を希望するスカウトが集ったチームであったが、それゆえに初対面でありながら対面での会議が困難なチームでありアイスブレイクやチームビルドができなかつた。そのため、不安や疑問点が提起されずマイルストーンが達成されずに時間だけが過ぎていくなど、コミュニケーション不足が発生することが多々あった。心理的な面を考えると初対面の人通しで密に連携を取ることは困難であり、チームビルディングの難しさは今後のブロックイベントの課題である。

それに対して、解決策として企画割で担当する RS 組織・チームを分ける方法を提案したい。各プログラムを活発な県連・地区 RS 組織や特定の分野に長けた RS チーム依頼し、それを幹事県などの運営を担当する実行委員が統括する方法だ。この方法であれば各プログラムの中でコミュニケーション不足に陥ることなく、より磨かれたプログラムを実施することが可能であろう。来年度、議論に活用されることを期待する。

2016 年度 3 月に実施された関東ローバームート(関東ローバーの集いの前身)の参加から RS 活動の多様性に魅入られ、2017 年度 RCJ 神奈川県代表になり RCJ 県代表によって運営された第 1

回関東ローバーの集いに参画した。そして神奈川で実施される第2回関東ローバーの集いを支えるため今回も参画した。3年間見てきて様々なRS活動を知り、インスパイアできるこのような機会は本当に貴重でありアツい。

今回、集った参加者・実行委員に感謝するとともに、来年度またアツい仲間と集えることを祈り、結びの言葉とする。

木伏 悠斗

今回実行委員という立場でブロックイベントに参加し、こういったイベントの参加経験がない自分では役不足ではないか等、多くの不安を抱えていたが、準備段階から当日まで実行委員長をはじめとする先輩方に助けてもらいながら、なんとか乗り越えることが出来たと思っています。個人的な反省としては、事前準備の段階で少し当事者意識が薄かったことが挙げられるので、次に同じような役割を任されるようなことがあれば、今回とは違った意識で取り組んでいきたいと思いました。また実行委員としては、関東ブロックのローバースカウトが県連盟の垣根を超えて交流を深めている姿を見ることができてとても良かったです。今後同様のイベントがあるとしたら、積極的に参加していきたいと思った。何より今回の経験を通して成長することができたのは、周りの実行委員の皆さんのおかげなのでとても感謝しています。

中山 堯登

前回に引き続き実行委員というとして参画したが、他の実行委員に助けられる局面が多かった。特に、準備段階で計画に携わるのが困難になり、元々担当していたプログラムを他の実行委員に任せてしまったことについては申し訳ない限りである。そんな中、参加者対応という役職を任せてもらい全うできたのは、やはり激アツな仲間にも恵まれたからこそである。今後同様のイベントに関わる際には、支える側になれるように研鑽を積んでいきたい。

結びになりますが、「第2回関東ローバーの集い」に関わった全ての方に改めて厚く御礼申し上げます。

七里 祐輔

私は県以上の規模の活動を運営することも同年代に向けてプログラムを提供するのもこれが初めての経験で、分からないことや不安がたくさんあった。そんな中で一つのプログラムを計画・進行し、活動を回す一人になれたのは私を実行委員に引き入れてくれた渡邊実行委員長を始め経験豊富な実行委員の先輩方のおかげである。参加者の中にも各地で活躍するローバーがたくさんいて、心から尊敬できる先輩方と一緒に活動できたこと自体が自分にとって大きな収穫だった。個人的な反省点はあったが、それらを学びに変えて今後の活動に取り組んでいきたい。

四至本 鈴香

第2回関東ローバーの集いは、私たち実行委員と参加者が多くの苦難を乗り越えたため、アンケート結果という数値による高評価を得ることができたのだと思います。当日、その場にいた人たちの誰か一人でも欠けていたら、第2回関東ローバーの集いは成し遂げることができなかったと思います。私は当初、RCJ 埼玉県代表の職務を全うすべく、実行委員に名乗りを挙げましたが、予想していた成果以上の成果を得られることができたと思います。参加者・実行委員全員が集いの目標・目的・メインテーマ・サブテーマ、また各プログラムの企画担当者の意図を少しでも汲み取ることができ、その先の「イベントに行っただけ」の状態にならないように努める瞬間があるのならば、私は嬉しく思います。

担当した役務以外の反省点としては、①実行委員制度の意義②RCJ 県代表の存在意義③関東ブロックイベントの意義について大まかに分類できると思います。①に関しては、例年ある関東ブロックイベントで、今年度初めて実行委員制度を採用したということです。理由として昨年度の RCJ 関東ブロックの反省点として「関東ブロックイベントによる県代表の負担が大きい」という反省に、今年度の RCJ 関東ブロックがその意見に同意したためです。しかし、実際に実行委員として職務を全うしたのは半数を満たしていません。半年前から決まっていた開催日は理由なく参加せず、「自分の県ではできない他県の活動のモデルケースを学びたい」と発言していた方々の声を聞くことはできませんでした。実行委員制度で意思ある者であった彼らはどうしたのでしょうか。モチベーションを維持する術を知り、周りをサポートできる者が少なかったことが悔やまれます。②は、そんな各県から出てきた実行委員をサポートできない県代表たちの存在意義です。実行委員という立場は各県連盟組織のなかで県代表よりも繋がりは希薄で、参加者募集を広報するツールもほとんど持ち合わせていません。また、「モデルケースを必要とするため」ということで、この集いでは「活動報告」や「次に活かす」ことを重要視してきました。しかし、十分な各県代表のサポートは得られることはほとんどなく、モデルケースとして見聞しに来た方々はいませんでした。実行委員に同じく自らの発言に責任を持ち合わせていないことを、関東圏に広く知れ渡る事でしょう。③に関しては、3年連続で開催されている関東ブロックイベントですが、目標・目的は達成されているのでしょうか。閉会後の満足感ではなく、1か月後、半年後、1年後を通して振り返った時に何が残ってるのか考えたのでしょうか。関東ブロックイベントに参加したことにより、実際に自身の活動やプライベートに影響を受けたのかは誰も知りません。私は現時点で、この集いを過去のものとして振り返るには早すぎるとは思いますが、埼玉県内の大きなムーブメントの1つにこの集いが加わっていることは断言できます。また、確実につなげて、今後とも彼らをサポートすることが、実行委員であり県代表としての務めであると考えています。

私個人の見解のみに限られてしまうこととなってしまうかもしれません。しかし、後に続く方々にはこの報告書を読み、自らが理想を考えるだけでなく、過去に、そして先人たちに学ぶという学習能力を身に付けてほしい。何を、何のために、この報告書を読んだのか。私たちの企画から、反省から、学んでほしいと切実に思います。

最後となってしまいました。関わった皆様、特に各県連盟の皆様、実行委員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

楽しいときは大きな声で歌いましょう、辛いときはもっと大きな声で歌いましょう。

飯塚 正樹

今回初めてこのような大きな大会の実行委員を務めたが、やはり実力不足が大きく感じられました。経験したことがない中で、自分なりに出来るところを頑張ってきたが、それでも空回りすることが多かった。今まで実行委員や、代表をやってきた方々に比べればその差が歴然として感じられた。けれど、その中でも自分なりに出来るところは補い、更にその上から実行委員同士でお互いを高め合い、みんなで頑張った結果今回は成功したのだと感じた。ローバーナイトの担当だったが、アンケートなどの結果を見て、たくさんの方に満足していただき、それにより自分が1人でも満足させられたのだという励みにもなりました。まだまだ未熟だが、これからもっと経験を積み精進していこうと思いました。

佐々木 真帆

初めての実行委員でやること全てが初めてでわからないことだらけであった。また、事前準備にもあまり参加できていなかった。当日も参加者の食事などを作るなどしかできなかった。自分の経験値が低いのがよくわかった。だが、他の実行委員の人たちとたくさん話し合っ、色々教えてもらって本当に良い経験をさせてもらったと感じた。実行委員の人たちとの協力があったからこそ、今回のイベントが成功したと考えられる。今後はもっと協力できるように、色々経験を積んでいこうと思った。

白井 栄全

まず、はじめに思うことは関東ローバーの集いに対してほとんど参加できず、力になれなかったことがとても残念でした。

最初は実行委員として計画を立てていこうと張り切っていましたが、実際は学校などの諸事情により計画はおろか、会議、さらには本番にも参加できませんでした。

このことから、何か物事を作り上げ、実践していくためにはやる気だけではなく、現在自分が置かれている状況、又今後の予測までもがとても大切になっていくことが身にしみてわかりました。

来年度は県代表を交代してしましますが、自分のことに余裕ができれば積極的に参加、アドバイスなどしていきたいと思います。

峯岸 志向

今回初めてこのような大会の実行委員をする事になり始めの頃は不安が大きかった。しかし、話し合いを進めプログラムを作っていくうちに必ずこの大会を成功させたいという使命感や大会に対する期待が増していくのを感じた。実行委員長や他の実行委員の方々の協力のおかげで良いものにできたのではないかとおもっている。今回の経験は自分にとってとても大きなものになった。今後、こういった活動に積極的に取り組み、様々な経験を積んでいきたいと感じた。



【参考資料①】アンケート

回答期間：2019年3月11日～3月18日

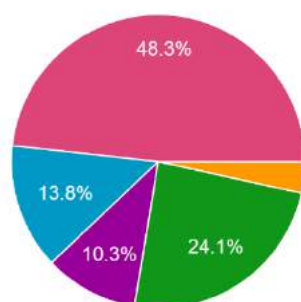
有効回答件数：29件

回答率：0.806

回答方法：Google フォームを用いた選択・記述方式

県連盟

29件の回答



- 茨城県連盟
- 栃木県連盟
- 群馬県連盟
- 埼玉県連盟
- 東京連盟
- 千葉県連盟
- 神奈川連盟
- 山梨連盟

内訳

群馬 1

埼玉 7

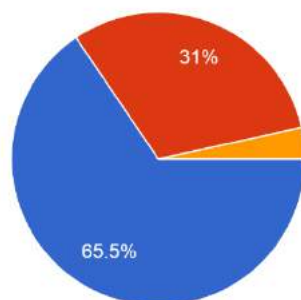
東京 3

千葉 4

神奈川 14

全体の満足度を教えてください

29件の回答



- 満足している
- おおそ満足している
- 少し不満が残る
- 不満が残る

内訳

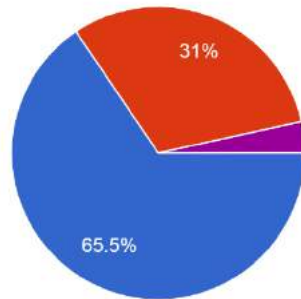
満足している 19

おおそ満足して
いる 9

少し不満が残る 1

チームビルディングに対する満足度を教えてください

29 件の回答

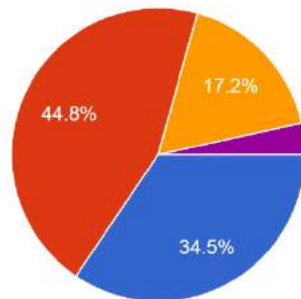


- 満足している
- おおよそ満足している
- 少し不満が残る
- 不満が残る
- 参加できていない

内訳
満足している
19
おおよそ満足
している **9**
参加できていな
い **1**

ローバーカフェに対する満足度を教えてください

29 件の回答

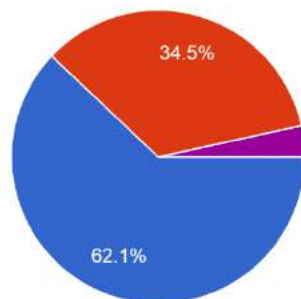


- 満足している
- おおよそ満足している
- 少し不満が残る
- 不満が残る
- 参加できていない

内訳
満足している
10
おおよそ満足
している **13**
少し不満が残
る **5**
参加できてい
ない **1**

活動報告に対する満足度を教えてください

29 件の回答

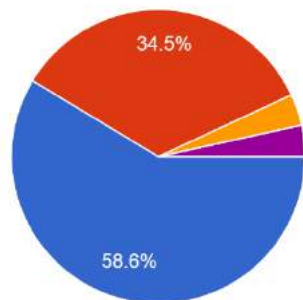


- 満足している
- おおよそ満足している
- 少し不満が残る
- 不満が残る
- 参加できていない

内訳
満足している
18
おおよそ満足
している **10**
参加できてい
ない **1**

奉仕活動に対する満足度を教えてください

29 件の回答

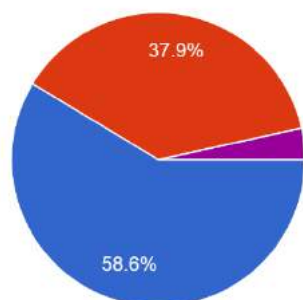


- 満足している
- おおよそ満足している
- 少し不満が残る
- 不満が残る
- 参加できていない

内訳
満足している
17
おおよそ満足
している 10
少し不満が残
る 1
参加できてい
ない 1

ローバーナイトに対する満足度を教えてください

29 件の回答

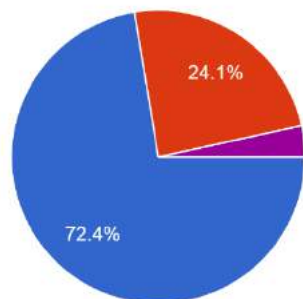


- 満足している
- おおよそ満足している
- 少し不満が残る
- 不満が残る
- 参加できていない

内訳
満足している
17
おおよそ満足
している 11
参加できてい
ない 1

プチフォーラムに対する満足度を教えてください

29 件の回答

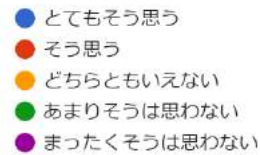
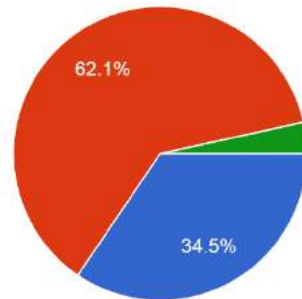


- 満足している
- おおよそ満足している
- 少し不満が残る
- 不満が残る
- 参加できていない

内訳
満足している
21
おおよそ満足
している 7
参加できてい
ない 1

プログラムに対する時間配分は適当でしたか？

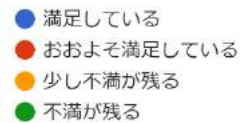
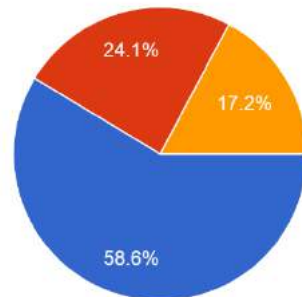
29件の回答



内訳
とてもそう思う 10
そう思う 13
あまりそうは思わない 1

食事に対する満足度を教えてください

29件の回答



内訳
満足している 17
おおよそ満足している 7
少し不満が残る 5

○食事に関する感想

- ・ 実行委員が毎食作ってくれてありがたかった。(多数)
- ・ おいしかった。(多数)
- ・ 1日目夜の食材獲得競争が大人数の活動ならではの方法でよかった。楽しかった。(複数)
- ・ 実行委員のお手製の料理はおいしかったし、作ってくださった方が毎回違ったのも面白かった。
- ・ 味のクオリティーが高く、手間がかかっていたと感じさせるおいしさでした。
- ・ 多少少ないように思えたが、カップラーメン等で調整していてよかった。朝だとカップラーメンを食べる時間が無かったのでパンとかあるとなおよかった。
- ・ とても美味しかったがやはり少し多かった。
- ・ とても美味しかったし量もちょうどよかったです。
- ・ コメが少し硬く、冷えた感じでした。

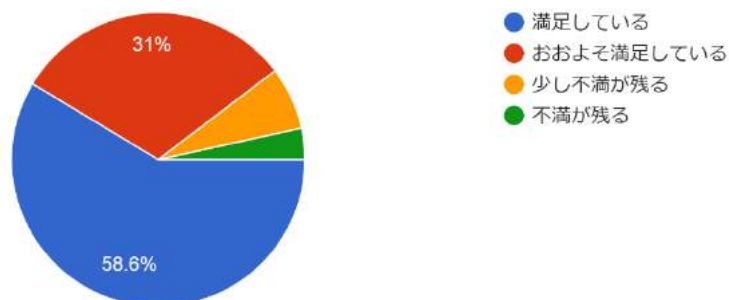
- ・朝ごはんには食パンはいろいろと言われるはず パン以外のサプライもあり

→食事についてはおおよそ高評価であった。実行委員の料理に対するクオリティーも高く、質の高い食事を提供できたものと考えている。また、1日目夜に行った食材獲得競争から連続して行う調理では、全員で行いかつ大人数でも活動できるプログラムとなり、参加者への寄与があったものと考えられる。

→一方、大人数への提供は食事の均一化が難しく、一部の参加者には口に合わない、という様子が見受けられた。また、朝食のバリエーションが乏しく、幾ばくかの飽きを感じたものと考えられる。これまでのブロックイベントでの朝食は BLT サンドやホットドックなど簡素なものが多かった分、これらには再考の余地がある。

生活面に対する満足度を教えてください

29 件の回答



内訳

満足している

17

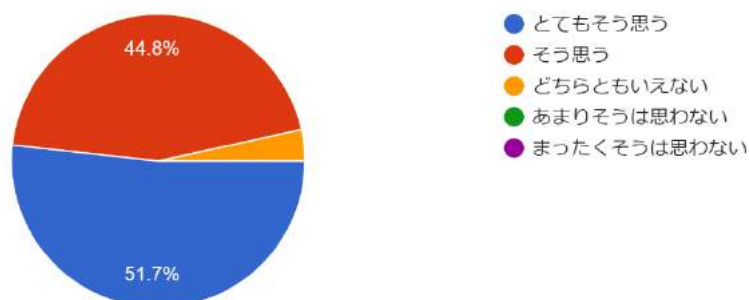
おおよそ満足している 9

少し不満が残る 2

不満が残る 1

自分の県・地区・団・隊へ還元できる内容がありましたか？

29 件の回答



内訳

とてもそう思う 15

そう思う 13

どちらともいえない 1

○イベント全体に対しての感想

- ・他の参加者と交流できて楽しかった。新たな発見があった。(多数)
- ・プログラムが楽しかった(多数)
- ・プログラムが参考になり持ち帰ることができる部分があった。今後の活動に活かしていきたい。(複数)
- ・参加者の多くと話す機会があった。関わりを深めることができた。(複数)
- ・関東ブロックでの意見交換や交流する機会をくれて感謝している(複数)
- ・実行委員の方に感謝している(複数)
- ・全体的にプログラムの時間配分と盛り込み具合、フォーラムと体験型プロのバランスが適切だったと思います。また関東 TIMES がとても良いものだと思います。思い出に残すのも大事ですが、得たものが目に見える形として残ったのは今後の活動に活かしやすいモチベーションも上がります。奉仕活動も話を聞くだけでなく、実際に活動できたのでとても納得できた。理解しやすかった。
- ・場所もアクセスしやすいうえに利用制限があまりなくローバー年代が意見交換をするには良い場所でした。
- ・参加者の中で年が上の方で、前回のローバーの集いも参加しているのですが、新たな発見や再確認できることが多くあったイベントでした。参加して良かったです♪
- ・夜更かしできることや、カップラーメン、お菓子をいつでも食べれること、携帯を自由に使っている点は、ベンチャーからしたらローバーだからこそ許されることだなと、少し大人の仲間入りしたような気分になりました☺
- ・有志による出し物が認められていたり、全体的に自治が求められる活動だったので、ここでの経験を今後の活動計画に応用していきたいと思う。
- ・実行委員がピリピリした空気を出しておりとても気分が悪かった。

→全体として高評価をいただいた。提供したプログラムを参加者がそれぞれに受け止めてくれ、今後の活動に生かせるように感じ取っていただけている様子が見受けられ、実行委員側としては目標が達成できたものと考えている。

→ローバーとしての活動する場所が提供できたと考えている。

→実行委員に余裕が無かった時間帯にピリピリした空気を感じさせてしまった。

○次にやりたい活動

- ・キャンプファイヤ(複数)
- ・スカウトスキル向上をはかるもの(複数)
- ・野外活動
- ・食材獲得競争
- ・海プロ

- ・優秀班を決める企画、県連盟対抗〇〇
- ・合同キャンプ、野営
- ・子どもの頃の遊び(鬼ごっこやかくれんぼなど)を、作戦を立てて本気でやりたい

→今回できなかったキャンプファイヤが複数見受けられた。
 →スカウトスキルを用いたプログラムで事前練習が必要なものという意見も見られ、野外での活動が求められていると感じた。
 →場所を生かしたプログラムの展開が求められる。

○全体を通じた改善点

- ・入浴時間がぎりぎりであった
- ・班長会議の伝達は必要最低限のみを伝達し、他は食事の後に全体に連絡するなどしてほしい。
- ・活動報告会は隣の発表内容に気が散ることもあるのもう少し発表場所が離れている方がよい
- ・開示されている情報が少なく次の行動に不安を感じることがあったので、活動の詳細を早い段階で出してほしい。(しおりも然り)
- ・実行委員の皆様が楽しそうにしているのがイベントの成功にとって重要だった
- ・実行委員の負担が大きそうで、自分から仕事を求めに行けばよかった。
- ・参加者と実行委員さんの距離がすごく遠く感じたところ
- ・時間にルーズになった場面が何回かあったこと。
- ・火を囲いたい

→入浴時間や班長会議の時間など時間設定が不鮮明な時間帯があり、参加者には負担をかけてしまった。
 →活動場所の関係で満足いくような設定にならなかったことは次回プログラムを作成する際には注意して頂ければありがたい。
 →実行委員が忙しそうにしている様子が多く伝わっており、また参加者と距離感を作ってしまったのは今後への反省点である。

○その他

- ・来年度も同様な活動に参加したい(複数)
- ・参加してよかった。有意義な時間となった(複数)
- ・実行委員に感謝しています。(複数)

- ・参加者に仕事をもっと振り分けていただけたら実行委員の方々とも交流ができたのかなと感じています。
- ・学校があるときや自分の団の活動があるときはローバー活動は忙しくてできないため、こういう企画に参加できてよかったです。新しい人がどんどん入ってきてその人たちも巻き込もうとする感じが内輪間が出過ぎない中でまとまりがでるようになってたんだなと思いました。実行委員さん方、楽しい企画をありがとうございました！

【参考資料②】プチフォーラム振り返り

| | ①アツク語り合う中であなたが一番やりたいことはなんですか？具体的に書いてみましょう | ②それを実現するために何が足りませんか？それを叔父なうためにどうすれば良いですか？ | ③あなたがグループで語り合う中で「あれはいいな」「素敵」と思った他のメンバーの行動や対応は、誰のどんな行動でしたか？ | ④新し発見・気づきはありましたか？ |
|-----|--|---|--|---|
| 神奈川 | 47 都道府県の伝統料理を作りたい。各都道府県の伝統料理を一品ずつ選出し、文化を学ぶためにも、料理の技能を高めるためにも、また、交流し、コミュニケーションをとるきっかけとして、このプロジェクトは行ってみたいと思いました。 | 47 都道府県すべての友達→SNS の活用、今までのスカウト活動にて出会った仲間への依頼、大きな活動(ムートとか) | 自分の環境を考え、不足しているもの、原因を明らかにして、次どうすれば良いのか行動に起こそうとしていた。 | スカウトの繋がりは活動するうえで大切であり、参加人数のためでもあるが、情報の共有として一番大切なのではないかと思いました。 |
| | パソコンや SNS をもっと活用できるようにする。広報や PC の講習会をやる。さらに香ながら RS の PR 動画をつくる、神奈川の RS の自由投稿の掲示板をつくる。→以前または現在そのようなものがあるのか調べて | 技術を持っている人のコネクション→まず知り合いに聞いてみる | 新井さんの、自分があれやりたい、これやりたいから具体的な案を出していくところ。具体案があるとイメージしやすい。 | 既存のあるいはすでに予定されているイベントを利用するのは、とっかかりやすく良いなと改めて思った。 |
| | 地区あるいは県のローパーで無人島キャンプをしたい | 人との繋がりはできたので、自分から積極的に声をかけて、 | | どのスカウトも自分の地区や県の活性化を中心 |

| | | | | |
|-----|--|---|---|--|
| 神奈川 | | 計画にうつしていきたい。 | | に考えており、地元愛があるんだな、と思いました。 |
| | ボーイスカウト内の掲示板(サイト)で海のない県もそうでない県も、海ならではの行事やキャンプを神奈川が主催者側になって仲間を集う。ビーチクリーン、砂浜追いかけっこ、海釣り、砂浜上でのテントの立て方、スイカ割り etc. | ・掲示板サイトというものを作成する技術が足りない→パソコンに強い人に話を聞く ・湘南あたりのビーチはどこまで許可が下りるのか→藤沢市や鎌倉市のえらい人に話を聞く | 平子侑果スカウトの素朴だけどやったことない楽しそうな活動に対する関心の持ち方。Ex.「そうなの!?!」「初めて知った～やってみたい!」 | 同じ県でも、地区によっては香 pp 津の違いが出た。湘南地区の活動をやってみたい!という声が以外にも多くてうれしかった。 |
| | 地区や県の人達との活動(合同)、(伝統料理の食べ比べ)、海外のスカウティング→様々な視点での活動 | ・人の募集→提案、つながりがしやすい掲示板(ネット)を整備とか、 ・いろいろなスカウトの活動の軌跡→活動の参考にしたい | 話している時に、視線をそらないで聴いてもらうと「ちゃんと聞いてもらえてる!」と思って自信をもって話せた | ・指導者としてやらなくてはいけない、といった固定観念があったが、VS みたいに活動してみてもいいんだ、と思った ・RS から急に県や全国での集まりには一機たくないと感じるスカウトもいると思うので、VS からの地区、県で |

| | | | | |
|-----|--|--|--|---|
| 神奈川 | | | | の交流があるだけでも活動の輪は広がるのかな、と思った。→合同移動 |
| | 現代人に祭り文化をもっとしんとうさせたい | ・地かい場所ならいけるけど、遠いところにはいけない→お金がない ・自分の腰がこわれているため踊れない | 千葉県・まゆさんのまずこの活動をアウトプットすること、まずそこからだと思った。 | 会うとプ宇都の大切さは、人や地区同士をつなげることが大切で、みんなが求めているということ |
| | 都道府県に一人一人友達を増やす。キャンプや奉仕活動に積極的に参加する。 | 関東ローバーの集いを増やす。奉仕活動などを計画し実践する。 | 体力、メリハリ、メンタルをボーイスカウトで身につける | 47 都道府県の伝統料理を作る |
| | 千葉県連盟と神奈川連盟とでコラボの企画をつくる。それを動画化してお互いの存在をアピール。 Or ページサイト(企画募集サイト) | 人、参加者 ビデオエディター 神奈川・千葉との合意 | 人の話とこれまで発表者が言っていたことを合わせて応用していること。 Aさん:ビデオエディターです Bさん:私マーケ専攻なので、プロモーションビデオ作れます。 | もう中盤の年代に入ったんだなと思った。新しい芽が出てきて、ここ数年の湯0スの千お会いが作りたかったものが着実にできつつある。感激した! |

| | | | | |
|-----|--------------------------------------|--|--|--|
| 神奈川 | デジタル機器を取り入れた野外活動 | デジタル機器の知識(ソフトもハードも)→勉強する デジタルをボーイスカウトの融合でどのようなことができるのかアイデア→実際にデジタル機器を取り入れた活動をしている 100 kmハイクの人達にヒントをもらう アナログなボーイスカウトの改革→一生懸命説明する | 上本スカウトが動画を投稿したい!という案を出した時に青木スカウトが動画編集できるということで団結してよかった | ボーイスカウトの得たものをボーイスカウトで活用することもできるし、ボーイスカウト外(学校内)で得たことをボーイスカウトに活用することもできる |
| | 災害派遣などのボランティア活動を続けること。ボランティア活動をやりたい。 | 災害崎の人達のニーズや、情報などの人のつながりの役割をもつパイプが必要。災害が起こった場所に行きやすくするための環境づくり | 上本さんの動画などを用いた高校やマーケティングをする活動 | 海外へ県などの情報 |
| | いろいろなローバリングに触れて、自分を磨き上げる | RCJ やさまざまな行事に参加して1つでも多く感じたことを見つけて自分の糧にする。 自分の地区を補足したい→他の地区の会議や活動に参加して参考にする | | |

| | | | | |
|-----|---|--|--|---|
| 神奈川 | 海外派遣！例)国際フォーラム、台湾派遣の指導者、ジャンボリーでの奉仕、日韓交流のイベント | 地区での人の綱張りが欲しい。→今回のような集いに参加したり、地区のBS関連のSNSを意識して見る ◎自主的にかつ積極的に行動することが大事！NOT 受け身 | 同じ年代の新ローバーの方の自分の特技を話す姿 | それぞれの個性や特技を生かして活動することが大切であり、受身ではなく攻めの姿勢が大事だと思いました。 |
| 埼玉 | 精神安定→？ | | | |
| | 県連盟 70 周年にあやかって、県内を廻り、70 名のスカウト関係者とわらしべ長者をする | 県内他地区の人の繋がりが欲しい→他地区の人から話を聞く | 率先して発表者に立候補する姿勢 | 埼玉には多くのパッションあふれるユースがいる |
| | 県内ローバーのさらなる発展のための意見交換(県ユースフォーラムの開催) | 指導者の理解→ローバリングの重要性と RCJ イベントで埼玉で集まった時の意見交換の様子を伝える | 全員:みんなが自分自らの意見を持っていて、それらをしっかり他のメンバーに伝えられていたから。うまく融合して新しく良いものにしたい | ローバリングは楽しむもの |
| | 多くの仲間と一緒に活動をする。大きい活動か小さい活動かではなく、たくさんの個性あふれるメンバーとともに、何かをしたい、そう思いました。 | 計画の立て方をよく知る。また、そのための人やお金が足りない。そのためには団の人と協力し、学び、人やお金を用意してもらいもする。しかし、まずは自分が知見をもっと広めなければならぬ | 人が言ったことについて、何かしらコメントを言ってくれる→相槌だけではなく、「こうだから、こうすべき」という返しであったり、話を真剣に聞いていることが伝わってくる | まだまだ自分が積極的に動いていけるということ。まだ知らないことがたくさんある。自分にはない能力や個性を持って学ぶべき人達がたくさん |

| | | | | |
|----|--|---|----------------|--|
| 埼玉 | | | | <p>いるということ。何よりも自分が知っている世界は狭いということ。そして、たくさんの人達と深く広く反すことで自分の可能性が広がっていくのを身近に感じられた。</p> |
| | <p>直近の 70 周年に際して行うローバー世代での行事。各地区からのローバー世代が1カ所に集まる。</p> | <p>参加率が低くなってしまふ→一度ローバー世代が集まらなければならぬような機械を設けて、普段参加する意思があまりないような人にも、次回また以降、と思えるような環境づくりをする。</p> | <p>泉田くんの進行</p> | <p>同じ県の中でも、共に活動したことの無い人もいて、みんなそれぞれ考えていることたくさんあることを知って普段の活動がもっと活発にできると思った。こつとコンタクトをとるべきだと思った。</p> |

| | | | | |
|----|--|---|---|---|
| 埼玉 | とにかく、何かをやらなければ始まらないので、何か皆で集まれる行事を地区からできればと思っています。みんなで秩父のかき氷食べに行くとか。あと、ローバーを造っていない地区とかあるので、支援とかできたらいいなと思いました。 | 足りないことはほとんどないと思います。ラインなどでいろいろ共有している(地区の方が)ので、かた苦しいと思わせないところが唯一足りないところかなと思います。 | 基本のあいさつ。できない人がけっこういるので、いいと思いました。 | けっこうみんな親しみやすい |
| | 70周年記念に便乗したRSの企画 | 企画を立てるには、賛同してくれる人を集めるのが必要かと考えた。まずは、埼玉県内の各地区のRSがどれくらいいるか知る | 「魅力のない県」と言われているからこそ、県内で任時の場所を紹介するツールを作成しようとする考え。 | 秩父が県内の野外活動で関わるが多かったが、他の場所でも野外活動に適した場所があるということ。 |
| | 他団(埼玉県以外)との合同プロジェクト 自分の団のことを県という枠組みから抜け出して、他県の団にも知ってもらいたい。また、他団のことについて知りたいということが主な目的でそういった新しいプロジェクトを自団でやってみたい | 他県の人との繋がりが薄く、候補も全く決まっていないため、まずは今回のような埼玉県と近い県と交流できるような場で交流を深め、協力する団を探すことが必要 | 泉田さんの意見を聞き、まとめ、他の人の意見を積極的にほめるといった行動を参考のしたいと思いました。 | 前に出て発表した後に他の県の発表を聞いて、理解しやすいような話し方を意識すれば伝わりやすいなと思いました。 |


| | | | | |
|----|---|--|---------------------------------|---------------------------------------|
| 埼玉 | 南極に恋人とオーロラを見に行きたい | お金が足りない。まず南極までの経路、手段を調べなくてはいけない。必要な装備も同様である。 | 泉田さんの「それも良いよね」と話を肯定的にとらえてくれる行動力 | あった。ローバーの活動は自由に好きなことをしても良いと思えるようになった。 |
| | 直近では 100 kmバイクに挑戦したいと思います。県の 70 周年記念にちなんで行事をしたいです。70 kmバイクとかでも良いんですが、ちょっとありきたりなので他の県にないことをやっていき、魅力を発信していきたいです。 自分自身では海外派遣、奉仕、ムート、会議と多種に渡り、参加して、吸収しながら学んでいきたいと思えます。 | 海外派遣の場合は、語学力とコミュ力が足りないところです。地域的にみると地域スカウトのつながり、スカウトの積極性が少々足りないのではないかと思うので、活動報告などに従事して後輩などに伝えられたらと思います。 | 共通項として”つながり”が大事だととらえました。 | ありました。 |
| 千葉 | VS と協力して、地区をこえて活動 地区内での活動をす る | RS の地区同士のつながりが足りない→ 近い地区で活動して から CRC | 自分のやりたいことを主張できる場所 | 人が足りなくて活動しているところは多い→VS など活動して規模を増やす。 |

| | | | | |
|----|--|--|--|---|
| 千葉 | <p>同年代のローバーが集まる活動にたくさん参加する→知り合いを増やす。他地区、他県の活動の様子を聞く。</p> | <p>他地区との交流 →知り合いの知り合いでつながる、CRC</p> | <p>今回の出会いを大切に、そのままにせず、今度は地区の人も交えて報告会などをしようという考え。</p> | <p>ローバーの思いは共通しているものがある。(ローバーが考えるローバリングと指導者の考えるローバリングが違う)</p> |
| | <p>活動報告会をした。今まで新しい活動を企画することについて、活動がうまくいかなかった。他の人たちのやっていることを知る機会もなかったから、まず初めにいろんな人を集めた活動報告会をやりたい。活動の申し込みをGoogle フォームでやれるようにしたい。</p> | <p>・活動を企画してどうやって人を集めたらいいかわからない→(話す人より、聞く側) 例: 他地区とのやりとりの仕方も事務的な手続き→地区コミにきく。教えてもらう 人をあつめる→友達づたい、SNS で拡散</p> | <p>湘南地区の人達の後輩をまきこんで活動を進める姿。やりたいことがある状態。</p> | <p>話し合いを通して他のメンバーとの共通項が「つなげる」だった。仲間がたくさんできた。この機会をいかして、ローバリングを楽しみたい。</p> |
| | <p>まずは地区・県内のローバスの集まる機会(つなげるチャンス)がもっとあればいいなと思う</p> | <p>今回の関東ローバーの集いのような場でつなげれたことをきっかけに積極的に会議に出ることをさそい合う→活動報告などを集まるきっかけづくりをする</p> | <p>年齢関係なくしっかり意見を言ってくれる</p> | |

| | | | | |
|----|--|---|--|---|
| 東京 | 「ボーイスカウトでお金を稼ぐ」ということを全国のRSができるような環境をつくりたい | 協賛みたいなのでもなんでもいいからつながり。偉い人の許可 | あきのちゃん:大学ローバーの発想の柔軟さ 鳥海・関元:自分の拠点がしっかりしていてその場所への支援をしっかりしているところ | |
| | | 日曜日に用事を空けておく | 神奈川のよさこいのリケジョの人 やりたいことや目標は人それぞれが、自分の過去と現在を見据えてこれからやりたいことの道を立てているのがステキ | |
| | 大学対抗の公式雪合戦 ・攻守に分かれて作戦も考える ・トーナメント or 総当たり | ・早慶上智の枠を超えたつながり→食事会やフォーラムなど交流の場を作る ・大学ローバースの認知度、イメージの向上→活動報告会でのブース出展など積極的な発信 | ・自分の経験を語り、実現へのヒントをくださった(内田さん) ・自分だったらこうする、と別視点から考えて広げてくださった(草間さん) | アクティビティだけでなく思考の場も大切。意見交換することでやりたいこと、実現可能なことが増えてほしい。 |
| 群馬 | ①日本一周をしながら日本史の知識を深めていき、様々な人たちに伝えたい ②地区や県のローバーのつながりを深めたい | ①知識量—インターネットや大学図書館に行く。伝える手段—THML等を学び、ネット上で配信 ②つながり—LINE等で通知 | 自分の意見をはっきりと主張したところ 他の人の意見を否定してはいけなかったこと | 他の県連盟の人たちが自分達の過不足な点についてすぐに意見が上がりまとまったこと |

| | | | | |
|----|----------|---|-------------------|----------------------------------|
| 群馬 | RS の活動報告 | <ul style="list-style-type: none"> ・発表の場→スカウト展での展示許可 ・発表資料＝活動した、したいこと→会議を開き、プロジェクト等を決める ・そのための人手→参加を促す、魅力あるプロジェクトの実施 | 「それいいね！」と合意する立ち回り | 団の中での改善を考えていなかったこと。地区や県に目がいっていた。 |
|----|----------|---|-------------------|----------------------------------|

【参考資料③】17th APR SCOUT PHOTO CONTEST 2019 実施要綱



SCOUTS®

Creating a Better World

World Organization of the Scout Movement
Organisation Mondiale du Mouvement Scout
Всемирная Организация Служебного Движения
Organización Mundial del Movimiento Scout
المنظمة العالمية للحركة الكشفية

World Scout Bureau Asia-Pacific Support Centre
Bureau Mondial du Scoutisme, Bureau Centre de South
Asie-Pacifique, Makati

OPC International Plaza Building
219 Sakado Street,
Legaspi Village, Makati City
Metro Manila
PHILIPPINES

Phone: (+63 2) 850 00 84
(+63 2) 857 16 75
Fax: (+63 2) 819 00 99

Email: asia-pacific@scout.org
Web: scout.org

Circular No. 1, series of 2019

To: Chief Commissioners
International Commissioners
Chief Scout Executives

8 February 2019

17th APR SCOUT PHOTO CONTEST 2019

SCOUTS for SDGs

Imagine the impact of millions of Scouts working for SDGs and capturing them in photos!

We are happy to announce that the 17th APR Scout Photo Contest 2019 is now open with "Scouts for SDGs" as theme.


We are calling Scouts and leaders across the Asia-Pacific Region to join the contest by sending photos of Scouts in action to raise awareness on Sustainable Development Goals (SDGs).

Last year, the World Organization of the Scout Movement took a commitment one step further by unveiling the "Scouts for SDGs" - an unprecedented mobilization that aims to engage 50 million Scouts to make the world's largest coordinated youth contribution to SDGs by 2030.


Submission
All entries must be endorsed by National Scout Organization (NSO) and will be judged by a panel of high profile international photographers. We encourage NSOs to promote this contest in their communication media channels.

Deadline is on **30 April 2019**.

Email your entries to:




asia-pacific@scout.org tere@scout.org

 Due to maximum size requirement, upload your entries with completed forms in **Google Drive** or **Dropbox**, and send us the **link**.

At the end of the competition, six winners will be announced: One Gold, two Silvers, and three Bronzes. Awards will be presented at a major regional event and the winning entries will be featured in our regional publications including the 2020 APR Wall calendar and posters.

Please see the attached guideline for the rules of the contest.

With best regards,



J. Rizal C. Pangilinan
Regional Director

/rcp/lt/tea 8February2019

Paddle your own canoe!



第2回関東ローバーの集い実施報告書

作成日 2019年5月10日(金)
作成者 第2回関東ローバーの集い
実行委員
作成責任者 渡邊亮太(神奈川連盟)